

第2回安城市スポーツ推進審議会・スポーツ振興計画策定委員会議事録

日 時	平成25年11月12日（火）午後1時30分～午後3時30分
場 所	安城市体育館3階第4会議室
出席委員	平岩文雄委員、荒川清明委員、松本美登志委員、山本新平委員、藤浦快也委員、石川恭委員、岩月俊二委員、森下秀一委員、吉田祥子委員、澤信一委員、高畑尚弘委員、中野幹尾委員、稲垣寿隆委員、加藤勝美委員、
欠席委員	笠原喜美江委員、加藤宣子委員
事務局出席者	教育長、生涯学習部長、スポーツ課長、スポーツ振興係長、施設管理係長、籠瀬、河村
委託業者出席者	長坂
次 第	1 市民憲章唱和 2 教育長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議題 (1) スポーツに関するアンケート調査の結果（速報）について (2) 計画策定市民ワークショップの実施について

1 市民憲章唱和

2 教育長あいさつ

みなさんこんにちは。委員のみなさまには、ご多用の中ご出席いただきましてありがとうございます。

本日は議題にもありますように、6月、7月にスポーツに関するアンケート調査を実施しました。その結果、現段階では最終的な分析は済んでおりませんが、その結果についてお示しして、市民のみなさんのスポーツに対する考え方の変化を把握し、これから作っていく計画の参考にしていきたいと思っています。委員の皆様には、様々な視点からご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

3 会長あいさつ

みなさんこんにちは、平成25年度第2回目のスポーツ振興計画策定委員会に出席いただきありがとうございます。

先日、2020年のオリンピック・パラリンピックが東京で開催されることが決まりました。この一大イベントに向けたスポーツ振興の取組みについて、新たな計画に盛り込んでいく必要があると思います。余談ですが、今年の夏に行われた小学生の全国大会の陸上4×100メートルリレーにおいて、安城の女の子が1位となり、男の子は4位となりました。これらの方々が、7年後のオリンピックで活躍できるようになると安城市としてもよいと考えています。今日は、委員のみなさまには、それぞれの立場から、活発で忌憚のない意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

4 議 題

(1) スポーツに関するアンケート調査の結果（速報）について

(事務局説明)

スポーツに関する基礎調査報告書（一般市民編・中高生編・資料編）、資料2により、アンケート結果及び主な課題について説明

①スポーツ実施率50%の達成について

(荒川委員)

スポーツ実施率について、平成19年度の調査は、ジョギングやウォーキングは含まれていたのでしょうか。多分この時は、入っていなかったのではないかと。

(スポーツ課長)

平成19年度のときは、「スポーツを実施していますか。」という質問でしたが、平成21年度から、「スポーツ・運動」という表現にしています。当初からスポーツには、身体活動も全て含むこととはしていましたが、単に「スポーツ」という表現であったことから、実施率に差が出たと推測されます。

(荒川委員)

スポーツ実施率は、もう少し高い数字が出るかなと思っていましたが、意外に低かった。朝、歩いていたり走っていたりする人をたくさん見かける。ストレッチなどを行っている人もいるがスポーツと認識していない人もいると思う。

(事務局籠瀬)

今回のアンケートの冒頭では、「このアンケートにおいて、「スポーツ・運動」とは、競技としての運動のほか、健康づくりのために行う散歩、サイクリングやレクリエーションなどの身体を使う運動全般を指します。」という定義は盛り込みました。回答者によっては、ストレッチなどをスポーツとして認識されていない人もおられると思います。

(稲垣委員)

役員をやらないとその子どもは、子ども会に入れないことになっている。こうした状況から、段々子ども会に入る人が少なくなっている。習い事などで積極的に子ども会活動をする人も少なくなっている。小さい頃の体験が大事だが、中学校、高校でのスポーツに生かされてくると思う。

(荒川委員)

各地区の子ども会で、入っていない人はどのくらいいるのか。

(稲垣委員)

入っている所は90%、入っていない所は25%で、平均すると60%くらいだと思います。子ども会の世話人が少なくなっている。

(石川委員)

率直な感想では、スポーツ実施率の50%の達成は難しいと思う。T市は、かなり積極的に情報提供しているし、町内会でも人を連れてくるような誘い方をしている。マンパワーでの働きかけと情報提供をかなり戦略的にやっているが、なかなか50%の達成は難しい。安城市がどの程度の働きかけをしているかわからない部分もあるが、T市はかなり頑張っているけども、なかなか達成できないことから、安城市はよい方だと思う。

(高畑委員)

スポーツ実施率について、問8の年齢別のグラフを見ると、年齢によってかなり差が見られる。30代が一番少なくて、年齢が高くなるにつれて実施率が多くなっている。30代、40代の実施率を上げることが重要だと思う。後半の設問でも、「時間がない」という回答が見られた。やはり仕事を考えると、30代、40代の方はそうした時間を取るのが難しいと思う。スポーツ実施率50%の達成には、年齢にあわせた取組みを盛り込んだ計画にしていくべきだと思う。

②学校の施設の利用促進について

(加藤勝美委員)

近くの三河安城小学校の体育館は、よく使われていると感じている。日曜日に町内の防災訓練をやろうと思うと、スポーツ利用者の先約があって、町内の防災訓練をやれない時がある。グラウンドは、休日にはサッカーやソフトボールで良く使われている。体育館は、ミニテニスなど色々なスポーツが行われている。

(吉田委員)

安城市内の学校施設を使ったことはないのですが、他市でバレーボールをやっていた時は、学校の体育館を使ったことがある。いつも同じ人が同じパターンで使っていて、一度使わなくなると、予約がとりにくくなったことがある。

今はランニングで、競技場をナイターの照明を使って利用している。働き盛りの人でも使いやすいように、夜間の利用をしやすくするとよいと思う。

(岩月委員)

学校施設の利用については、どのように周知しているか。

(スポーツ振興係長)

学校の中に、主に校務主任の先生が中心になって運営委員会という組織を作っていた

だいています。PTAが中心の団体だとか、その学校の地域にお住まいの方で作られたチームで、卓球やバドミントンなどの種目などを登録いただいて、平日の夜間などで、学校行事、子どもたちの行事など優先順位はありますが、空いた時間を公平に利用していただいています。広報では、年に2回程度、登録団体の募集記事を載せています。また、各学校でも随時周知も図っていただいています。

(岩月委員)

既存の仕組みがあるならば、その活性化を図るべきではないか。それプラス、ハード面でナイター設備のない場所に整備するなど、費用がかさむが、利用しやすいような仕組みを作っていくことが大切だと思う。仕組みを丁寧に伝えていく作業が必要だと思う。

(澤委員)

学校開放は、学区内の方が利用できるという制約があるが、そうした制約を緩和すると学区外からの利用者が出てくる。セキュリティ面などで不安が出てくるが、問題点を解消して行えば、利用者は増えると思う。

(中野委員)

近くの南部小学校は、ほぼ土日はソフト、フットで年間通じて利用している人が使っている。外のグラウンドの需要が高く、多目的グラウンドが不足している気がする。学校の施設は、実際には使いたい時には使えないのが実情である。だから、使いにくいという話が出てくる。南部小学校は一杯だが、祥南小学校は空きがあるといった情報がすぐに分かるとよい。町内会の子ども会役員さんは走り回っていて、安城高校までグラウンドの空きを確認している。どこかで空いているかもしれないが、情報不足もあって使いきれていないのか、あるいは本当に空いていないのか。そのあたりがわからない。

(スポーツ振興係長)

学校からの利用報告を毎月集計していますが、定期的に使っていただいている方々もおられ、利用率が低いから上げたいというよりも、使いたい時に使える場所はどこにあるのかを知らせる仕組みづくりや学区外の人でも使えるように枠を広げることなどが課題だと感じております。

(加藤委員)

町内会の公民館ホールで社交ダンス、ラージ卓球、ヨガ教室などを多くのチームが利用している。子ども運動広場は、午前中は老人クラブが使っている。土日は子どもが使っている。三河安城の調整池のグラウンドでは、ソフトボールやゲートボールで使われている。こうした施設の稼働率は高いと思う。

③スポーツボランティアへの参加について

(石川委員)

アンケート結果のスポーツボランティアの実施率は低いと思う。ただし、一般市民が7.4%で、中高生が14.6%と2倍になっている。学校の先生の教育の賜物で、明るい希望の持てる数字だと思う。こうした状況を今後活かしていくものとして、一つは情報の提供が大切だと思う。どこで、どんな活動があるかを色々な手段で発信していくことが大切である。また、子どもたちに社会貢献に関わって、人に喜んでもらうことによって、社会の役に立っていることへのうれしさを味あわせるために、ある程度強制的な働きかけをすることを、中学校、高校でやっていただけるとよいと思う。そうすると人に喜ばれる楽しみが見つかるのではないかと思う。もう一つが、ボランティアだから見返りを求めてはいけませんが、例えば、市のスポーツボランティアでは、ボランティアポイントを渡して、それが何ポイントもたまるとマーメイドパレス無料利用券をあげたりする特典があると動機づけになると思う。

(松本委員)

東山中学校に勤務して5年目となるが、1年目と5年目を比較すると、町内会活動へのボランティア活動への参加率は向上している。東山中学校では、担当の先生から積極的に生徒に呼び掛けている。町内会長にも、子どもたちを使ってほしいと呼びかけをしている。市内の中学校でも増えてきていると思う。東山中学校では、和太鼓部が10年前にできた。本当は全国コンクールに出てもいいが、地域やデンパークのイベントでボランティアとして、意欲的に参加している。本当にボランティアに参加する子どもたちが増えてきたなと感じている。コンクールに打ち込むのではなく、地域貢献などに打ち込むことも必要だと思う。先ほど子ども会の参加率が低くなったという話があったが、子ども会はスポーツで勝つことばかりに夢中になる。そうした子ども会のあり方を考えていかないといけないと思う。子どもの時こそ、色々なスポーツに親しませて、遊びの感覚をたくさん目に付けさせることが、将来大切になってくると思う。

(澤委員)

一般市民の方のスポーツボランティアに参加したいというのは、年齢層の高い人の意見が多いのかと思う。若い世代にいかに参加してもらえるかが大切で、中学校、高校のボランティア活動をなるべく活発にすることが、少しずつ底辺の広がっていくことにつながる。そのあたりを重点的に行っていくことが重要だと思う。

(岩月委員)

スポーツボランティアとしてスポーツに限定しているが、社会全体で見ると色々な種類があり、ボランティアが増えれば、社会への貢献度が高まると思う。福祉ボランティアであれば、参加率が高まると思う。スポーツには色々な解釈・分野があり、障害者スポーツがある。障害者スポーツが福祉になるのか、スポーツになるのか議論があるが、

国のほうでは、スポーツ分野に障害者スポーツが含まれることになり、福祉ボランティアとスポーツボランティアが重なる部分も出てくるので、スポーツボランティアの参加率も高まると思う。

(藤浦委員)

ボランティア関連の仕事をしているが、確かにボランティアは集まりにくい。ボランティアによっては、自分はこのスポーツが好きだから、得意だから、このスポーツボランティアをしたいと考えている人もいたりする。市でそういう情報を得ることができるならば、登録制のボランティア制度ができるとよいと思う。

④スポーツ指導者の技術・知識の向上について

(荒川委員)

スポーツ指導者講習会について、広報やパンフレットでしっかりとPRをすべきだと思う。一般の人でも、たいへん参考になるので積極的にPRすべきだと思う。

(平岩会長)

安城市で公認されたスポーツ指導者は、70名位いる。100名になったら、一般向けに公表していくつもりである。

⑤市のスポーツ施策(総合型地域スポーツクラブ等)の認知度・関心度の向上について

(森下委員)

民間のスポーツクラブで働いているが、総合型地域スポーツクラブと民間のスポーツクラブとの違いがはっきり認識できていない。総合型地域スポーツクラブとはどのような活動をしているか。

(スポーツ振興係長)

ANJOほく部みんスポクラブは、東山中学校区の市民が会員として、各種スポーツ教室をやる際、参加料を持ってきていただければ、そこに住んでいる人は、誰でも参加できることになっています。北部公民館を拠点にして活動しており、情報発信したり集まって会議をしたり、スポーツ推進委員さんが中心になって活動していただいています。もう一つのふぁみりースポーツステーションは、南中学校区にありますが、民間の方が立ち上げたものでございます。協力企業からの支援等で催しをやっています。この二つが安城市内にある総合型地域スポーツクラブです。

(山本委員)

安城市として、中学・高校生を踏まえて、総合型地域スポーツクラブをどういう方向性を持って行きたいと思っているのか。学校には部活動があるので、連携だとかうまくやっていかないと部活動を指導する立場としてやりにくいと思う。実際にほく部みんス

ポはどのような状況となっているのか。

(松本委員)

東山中学校では、今のところ連携は特にない。

(教育長)

安城市の総合型地域スポーツクラブは、国の施策とは違って、地域の連携の中でやることをやるという形になっています。安城市では、スポーツ推進委員が中心となり、地域のスポーツ振興をする形で動き、幅広いスポーツを行い、地域の交流も深まることは意義が大きいことだと思います。安城市には、中学校区単位で公民館があり、災害時の避難所になっています。スポーツを通じて交流をしていけば、災害があった時は、顔がわかり協力体制ができメリットがあると思います。

(石川委員)

総合型地域スポーツクラブの管理運営・マネジメントが大変で、立ち上げたけど続かないという事例が見られ、少ない助成金を使ってなんとか運営しているクラブがある。

(生涯学習部長)

東山中学校区には、北部コミュニティ会議があり、防災関係や文化関係など色々なことをやっています。そのなかで、特にスポーツ分野を担当しているのが、ほく部みんスポとなっています。

⑥今後整備を検討するスポーツ施設について

(藤浦委員)

アンケートでは、温水プール、多目的グラウンド、体育館などの希望が多かったが、周りをとりまく環境、具体的には駐車場なども整備したほうがよいと思う。駐車場以外にも安全面なども踏まえた検討も必要だと思う。

(2) 計画策定市民ワークショップの実施について

(事務局説明)

資料1により、ワークショップの概要について説明

(議題(1)、(2)ともに承認)

(生涯学習部長あいさつ)

本日は、お忙しいなか出席いただきありがとうございます。また、長時間に渡り慎重に審議、ご意見をいただきありがとうございます。アンケート結果は最終的なものではありませんが、みなさんの意見を元にまとめていきたいと考えております。来年度

本格的に計画の策定作業に取り掛かっていきますので、こちらに活かしていきたいと考えております。今後も委員のみなさまの貴重な忌憚のない意見を頂戴したいと思いますのでよろしくお願いします。

以上